



いとう
伊藤 おさむの市民ニュース

ホット・ホット・越谷

発行：伊藤おさむ後援会

〒343-0841 越谷市蒲生東町8番37号

E-mail osamuchan@ae.wakwak.com URL http://park19.wakwak.com/~osamuchan/

平成18年7月1日発行 №18

TEL 048-986-9553 FAX 048-989-2397

越谷市立総合体育館は、関東

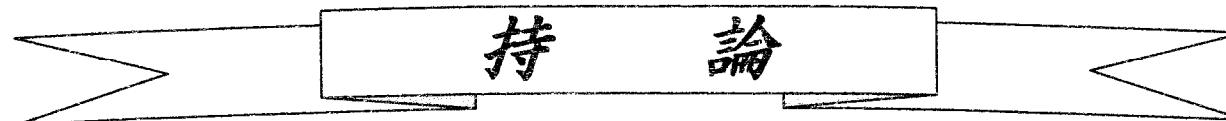
地方において第1級の規模を誇り、メインアリーナではバレーボールやバスケットボールをはじめ、あらゆるスポーツを行

うのに必要な機能を備えています。収容人員は、固定客席2,224席、半固定客席2,220席、その他合わせて4,500名近くを収容することができます。これにより、スポーツ競技や国際試合だけでなく、各種イベントにも対応で

きます。サブアリーナでは、従来の中央地区、北地区、西地区、南地区にある地域体育館に続く東地区的地域体育館として、また武道場は柔道・剣道を中心のご利用いただけます。

この体育館のもう一つの特徴として、広さ1万平方メートルにおよぶ池があります。それは、大雨など非常時の調整池ですが、子ども達が遊べる親水池にもなっています。

数多くの可能性を秘めた、「水と緑の公園」の中にある体育館を大いにご活用ください。



このところ、親が子どもを、或いは、子どもが親を殺めるという、やりきれない事件が頻発している。中でも、成績優秀の高校生が、英語力低下を苦に起こした、放火殺人という犯行は、社会全体に衝撃を与えたのではないだろうか。いくら成績が優秀だとはいっても、人を殺してはいけないという基本的なことが解らない人間に、英語を教えても意味のないものになると私は思う。

最近読んだ本の中に、「国家の品格」というベストセラーの本があるが、この本では、「小学校でどれだけ英語を教えたところで、国際人になれるわけではない」という理由で、公立小学校のカリキュラムに英語を入れることに意味はない。私も同感である。

日本人は、英語よりも先に、日本古来の文化や伝統、歴史をもつて学び、日本人として生まれたことの意味を考え直す時期にきていいのではないだろうか。

越谷市議会議員伊藤おさむの議会報告！ 「6月定例会報告」

平成18年6月定例市議会が、去る6月2日～6月19日までの18日間にわたり開催され、市長提出議案17件が原案通り可決されました。その主な内容は、○議会の議員その他非常勤職員の公務災害補償を拡大○仮称西大袋中層住宅(市営住宅50戸)を623,983,500円で取得○市が管理する土地の明渡しを求め住民を提訴○草刈作業中の事故について市民と和解(損害賠償額19,000,000円)○リサイクルプラザ啓発施設等の建設工事(平成19年6月29日まで)を締結学校教室用机・いすを3,185セット(小学1年生用)購入○議会選出監査委員に遠藤議員を選出○70歳以上の国民健康保険の窓口負担を2割から3割へ改正など、計17件が審議されました。

また、今定例会では正副議長選挙が行われましたので、その詳細をご報告します。

議長選挙	副議長選挙
永井 龍男議員(21市民) 18票	野口 佳司議員(自由ク) 14票
中村 讓二議員(新風ク) 13票	伊藤 治議員(自民党) 13票
	伊東 紀久江議員(共産党) 3票
無効票 1票	無効票 2票

地方議会の正副議長は、地方自治法で4年間の任期がありますが、これまで1年交代が続いております。

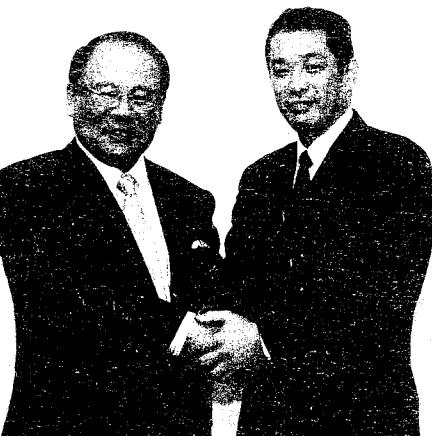
今回の議長選挙で私が特に矛盾を感じたのは、議長選挙に共産党の候補者の名前がないということです。過去の歴史を紐解いて見ても私が調べた限りでは、このような珍事は見当たりません。国政においての「確かな野党！」の意味通り、他の政党に迎合することなく、しっかりと意思表示を共産党には求めたいものです。

建設常任委員会(損害賠償額を定め和解することについて)での質疑

事故の概要は、平成16年6月23日午前9時25分ごろ、新川町2丁目の市道において、市の職員が草刈作業を行っていたところ、自転車で通りかかった市民の右手に草刈機の刃が接触し、負傷を負わせてしまいました。

問 本来、このような分野の作業は市の職員ではなく、熟練した技を兼ね備えた民間業者に委託すれば、事故にはならなかつたと思う。従つて、全面的に民間の業者に委託するべきであると考えるが。

答 草刈作業等については、民間への委託が好ましいと考えているが、市民サービスの直結する部門でもあることから、小規模の作業については今後も職員により対応をすることで市民サービスの向上に努めていきたい。



左は自民党武部幹事長

地域を知るシリーズ No.16

レイクタウンの通学区域を検討！ 「明正小・川柳小・大相模小」に振り分け！！

現在、レイクタウン事業は、平成19年度の街びらきと新駅の開業に向けて、駅前予定の見田方遺跡公園の工事着手や商業施設予定地にあった斎場の撤去など、事業計画に基づき順調に工事を進めています。また、都市再生機構により住宅事業者を対象に住宅用地の販売募集を行ったところ、多くの事業者の方から申し込みがあるなど、レイクタウンに対する期待の大きさが伺われます。

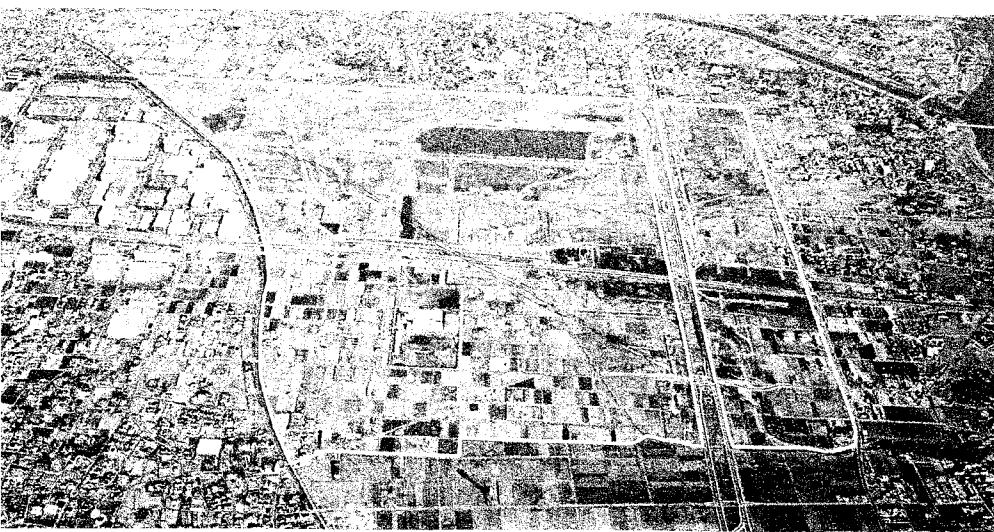
こうしたレイクタウン事業の進捗状況を鑑みると、計画人口約22,400人がレイクタウンに居住した場合、現在の通学区域である大相模小学校の児童数の大幅な増加のため、児童の受入に支障が出ることが予想されます。

例えば、現在の大相模小学校は児童数が512人で18クラスありますが、推計では平成21年度には、児童数が850人で26クラスになり、保有普通教室数を上回ります。さらに平成30年度になると、児童数が2,725人で75クラスになってしまいます。

そこで越谷市教育委員会では、今後の児童数や学級数の推移等を踏まえ、明正小学校、川柳小学校、大相模小学校の3校について、次代を担う子ども達にとって、より良い教育環境を確保するため通学区域の見直しについて、越谷市小中学校学区審議会へ諮問するなどの検討を行っています。

その内容は、例えば現在の明正小学校は児童数が152人で6クラスありますが、推計で平成21年度には、児童数が244人～469人で10～14クラスになり、平成30年度になると、児童数が1,094人～1,153人で30～32クラスという規模の小学校になります。また、現在の川柳小学校は児童数が504人で15クラスありますが、推計で平成21年度には、児童数が433人で14クラスになり、平成30年度になると、児童数が941人～1,008人で28～29クラスという規模の小学校になります。一方の大相模小学校は、推計で平成21年度には、児童数が504～729人で18～23クラスになり、平成30年度になると、児童数が1,049人～1,118人で31～32クラスという規模の小学校になります。

越谷市教育委員会では、今後、越谷市立小中学校学区審議会での協議の行方を見守りながら答申を待つと共に、地元の自治会やPTAなどへの説明も併せて行っていきます。



伊藤 あさむの

～バリアフリー検証～No.18 JR南越谷駅下りホームにエレベーター設置！

今回は、かねてより念願でもあった南越谷駅のエレベーター設置が、3月20日に供用開始を迎えましたので、その稼動状況と概要を調査してまいりました。

このエレベーター設置事業は、交通バリアフリー法に基づいてJRが設置したものですが、その費用の半分を埼玉県と越谷市で負担しています。事業費については、総額44,934,122円(施設購入費12,831,200円・建物工事費25,558,512・電気設備工事費6,544,410円)に対して、越谷市補助金22,467,000円(内県補助金11,200,000円)を支出しています。

エレベーターの仕様は、定員11名、出入口有効幅員90cm、カゴ内寸法100cm×183cmで出入口のタイプが貫通2方向出入口(入口と出口のドアが違う)なので、車いすで利用した場合の回転不要など、体の不自由な方が利用しやすいエレベーターとなっています。

現在、南越谷駅は、1日121,728人(平成16年度調)の乗降人員があり、本来であれば上りホームにも設置をしたいところですが、駅舎の大規模改修を行わないと設置場所を確保できないことから、今後は、JRで検討していく予定になっています。

越谷市内各駅のエレベーター(EV)・エスカレーター(ES)設置状況は、蒲生駅がEV1基・ES2基、新越谷駅がEV4基・ES12基、越谷駅がEV2基・ES4基、北越谷駅がEV2基・ES4基、千間台駅がES5基、そして南越谷駅のEV1基・ES4基の計EV10基・ES31基となっています。ご案内のように、大袋駅にはEV・ESは1基もなく、また、千間台にはEVがありません。越谷市では、このような状況に対し東武

鉄道に何度も要望を行っておりますが、東武鉄道では予算的な問題やEV設置の優先順位などの課題を抱えておりなかなか前進が見られません。

今後は、バリアフリーの観点から、東武鉄道に対して粘り強く交渉を進めるよう担当者に働きかけていくと共に、議会で発言していこうと考えております。

